

④品川駅北周辺地区下水道幹線移設並びに歩行者通路切替え(第1段階完了) ～新たな幹線道路整備に向けた官民連携による基盤整備マネジメントの取組み～

受賞機関 独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部

キーワード 冠水リスクの解消、既存インフラの活用、
官民連携による基盤整備マネジメント

全建賞審査委員会の評価ポイント

下水道幹線移設と旧施設の歩行者通路利用整備の取組。関係機関で協議を行い、地域の冠水リスク解消のために先行移設して不用となった下水道幹線(雨水)を工事中の仮設歩行者通路として活用した点や、新規で鉄道用地を横断する施設を築造するより大幅なコスト縮減を図り、施工効率化を実現した点が評価された。

1. はじめに

平成28年度より(独)都市再生機構(以下「UR」という。)が施行者として整備を進めている品川駅北周辺地区土地区画整理事業において、約5年で下水道幹線の整備が完了したと同時に、隣接する高輪放水渠を活用した新たな仮設歩行者通路の計画を官民連携で立案した。令和5年10月に従前より快適な歩行者通路切替えの第1段階を完了し、今後本格化する幹線道路整備(第二東西連絡道路)に繋がった。

2. 事業の概要

品川駅北周辺地区は大規模な鉄道車両基地が存在し、港区内の東西の移動交流が分断されていることが大きな課題であった。加えて標高が低く従前の下水道施設が脆弱なことから、豪雨の際は度々冠水し、その度に地域の生活道路は通行止めを余儀なくされる状況であった。

土地区画整理事業施行者としてURは、第二東西連絡道路の整備に向けて、鉄道営業線直下で難工事となる下水道幹線移設や既存インフラ空間を活用した仮設歩行者通路の整備など、同時並行的に進捗する複数工事の合意形成を図りながら、地域の課題解決に資する基盤整備マネジメントを推進した。

3. 事業の成果

JR在来線や東海道新幹線に近接する非常に厳しい条件下の難工事である下水道幹線(雨水・汚水)の移設整備等を約5年かけて完了し、地域の冠水リスクを解消した。

また、既存のインフラ施設を活用することで、新しく鉄道用地を横断する歩行者通路を築造するよりも大幅なコスト縮減と施工効率化を実現した。それにより従前の生活道路(通称:お化けトンネル)より空頭が十分に確保され、明るく快適な空間となり、地元説明会や現地での丁寧な周知等、地域の方とコミュニケーションを図りながら新たな仮設歩行者通路切替えを達成し、今後の第二東西連絡道路整備の本格化に繋がった。

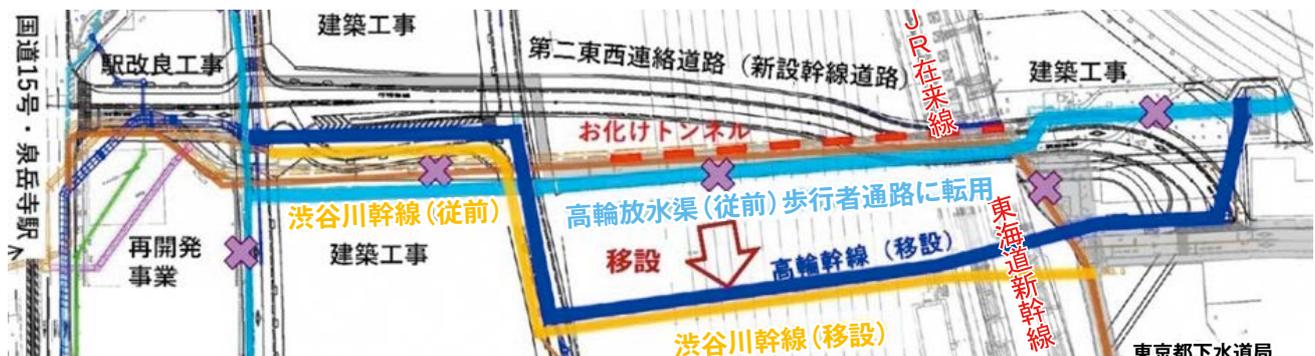


仮設歩通路整備前後の状況

4. おわりに

当地区のような交通結節点エリアでの都市再生事業では、安全な歩行者動線の確保や地域に密着しながらの整備が重要であり、きめ細かな対応やその積み重ねがステークホルダーへの信頼にも繋がる。第二東西連絡道路は、今後も複雑な工事展開の最適化を図りながら、令和13年の開通を目標に地域と連携しながら工事を推進していく。

賛助会員 (株)エイト日本技術開発、鉄建建設(株)



鉄道営業線近接部での下水道幹線移設

東京都下水道局